

「学生生活の振り返り」

私が文京学院大学を知ったきっかけは高校の先生から勧めでした。何度かオープンキャンパスに行き、先生と生徒のアットホームな雰囲気の魅力を感じ、地区統一試験を受け入学までに至りました。入学前はこれから始まる見当もつかない生活にただ漠然と不安を感じていましたが、入学式の時点で「この大学に入ってよかった！」と思えるような友達との出会いに、不安が期待や楽しみに変わったことを今でも覚えています。それから4年、卒業式までにたくさんの思い出が出来ました。

〈勉強面〉

授業は1年生時から解剖学や生理学などの基礎医学を学び、2年後半から作業療法士になるための専門的知識を学びました。専門的で難しい授業内容に戸惑うことも多くありましたが友達や先生の支えで何とか乗り越えました。また、授業とは別に実習があり、授業とは違った難しさや忙しさに心が折れそうになることもありました。しかし、そんな時も友達と支え合い、つらい時は連絡を取って相談し合い、長期にわたる大変な実習も乗り越えられました。

〈一人暮らし〉

実家が横浜で往復1時間半～2時間かかりました。次第に授業数が増えることや、また私は文化祭で「マッスルプロジェクト」のダブルダッチに所属し、夜遅くまで練習し、通学が大変になることが予想されたため、大学1年の夏ごろの学生寮に入り、2年～3年時ではふじみ野のアパートで一人暮らしをしていました。初めての一人暮らしで慣れないことも多くありましたが、とても楽しく充実した日々を過ごすことができました。友達を家に呼んでパーティーをしたり、試験前は泊りがけで勉強したりしました。ふじみ野はスーパーも多く、電車で少し行けば川越も池袋にも出やすく個人的にはとても住みやすい所でした。

〈その他〉

「マッスルプロジェクト」という文化祭で公演する有志団体に参加しました。マッスルを通し理学療法学科や臨床検査学科にもたくさんの友達が出来ました。文化祭前は朝練、放課後は遅くまで練習し、密度の濃い時間を過ごした仲間は卒業した今でも時折集合したり、一生大事だと思える仲間が出来ました。文京学院大学の保健医療技術学部に入學しましたら、「マッスルプロジェクト」に参加することをお勧めします^^

こうして文京学院大学での4年間を振り返ってみると、「大切な人々に出会うことが出来た」、ありきたりな一文ですがこの言葉に行きつきました。

「入職1年目の生活」

私は神奈川県にある急性期病院に勤めています。4月に入社し、初めは先輩について見学したり、雑務をこなして過ごしていました。正式にライセンスが届き、徐々に患者様を受け持ち、夏が過ぎ、年末ごろになると毎日毎日忙しい日々になりました。作業療法士としても、社会人としても1年目の新人で、漠然とした不安や忙しさ、臨床の難しさに時には「学校に戻りたい」と思う日もありましたが、職場の同期や先輩、そして何より同じ作業療法士として頑張っている文京の友達の支えがあり乗り越えることができました。文京の友達とは休日の日に勉強会に参加したり、友達同士で勉強会を開いたりもしました。良質な治療を求めるには自分の努力が必須であるため、日々勉強、日々向上の精神で頑張っていこうと思っています。